

令和 7 年度

「運営に関する計画」

大阪市立佃西小学校

令和 7 年 4 月

大阪市立佃西小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校では、児童が安心して成長できる学校づくりを目指し、以下の取り組みを進めた。

○ 基本的な生活習慣の確立

1. 「オフラインデー」

テレビ・PC・スマートフォン・タブレットの使用を控え、読書や学習、家族との団らん等に時間を使うことを推奨した取り組みを行った。毎月 0 のつく日に実施した。学級懇談会や保護者メール、学校だよりで発信し続けた結果、児童のきまりを守ろうとする規範意識の向上につながった。

2. 「Home 10」「School 10」

家庭生活における約束、学校生活における約束を提示し、学校と家庭が連携して児童を育てる取り組みを行った。「Home10」は毎日の家庭での生活を振り返り自己評価することで、基本的な生活習慣の確立を目指した。また、「School 10」は、毎月の「School 10 強調週間」を設け、日々の学校生活の振り返りを行った。

3. 放課後の校庭開放

放課後の校庭開放を行い、遊び場の少ない児童が元気に遊ぶことができる場を設けた。

○ 「個別最適な学び」、「協働的な学び」のある授業の創造

1. 「TSUKUNISHI スタンダード」に沿った学習指導

どの学年・学級でも同じ学習規律のもと、学習に取り組むことで、同じレベルの質の高い授業を受けることができるよう 「TSUKUNISHI スタンダード」に沿った学習指導を行った。宿題の量やノートの書き方、交流活動の仕方、発表方法などを統一し、児童が安心して学習に取り組めるようにした。また、年間の研究授業を通して学習指導のあり方や指導方法の工夫を行うなど、さらに学力が向上するよう教職員全員が研鑽に努めた。その結果、すべての学年・学級が落ち着いた雰囲気で学習できており、学習に対する意欲も高く、素晴らしい学習習慣が身についている。

2. 教科担任制・教科専科の拡大実施

以前、年度途中に 2 名の教員の欠員が出て、補充の講師が配置されない間、学級担任を 3 名で教科を分担した教科担任制や他学年担任の協力を得て行った教科指導が始まりであったが、近年本校では教科担任制や専科指導を定着させ専門的教科指導の充実を図ってきた。昨年度はさらに専科指導を拡大実施することができた。

学級担任だけではなく、複数名の担任が児童の指導にあたることできめ細やかな学習指導、生活指導を行うことができた。また、各教科を専門的に指導することが学力の向上や学習意欲の向上につながった。校内アンケートでの「学校に行くのは楽しいですか」に対する肯定的な回答は、87.3 ポイントあり、前年度を上回った。

3. 漢字検定試験実施

校長経営支援予算や学校力 UP 事業予算を活用し、2～6 学年の児童が無料で漢字検定試験を受験できるようにした。さらに 3 年生から 5 年生は英検 JR も無料で行った。検定試験に向けた学習教材を校長室前や教室前に置き、児童が自主的に学習できる環境を整えることで、学習への意欲を高めることができた。

今後の課題

以上のように、先駆的な教育改革を進めてきたが、ここ数年のコロナ禍での教育環境の急激な変化や長期間にわたる取り組みの弊害も見られるようになったことから、これまでの取り組みを見直し、新たな体制で教育を進める必要がある。

○ICT 機器を使用した学習環境が整っていく中での「オフラインデー」の意義の見直しを行う必要がある。家族との団らんの時間を増やすこと、テレビやスマートフォンからでは得られない読書や運動、遊びの推奨が目的であったことから、一律にモニターを見るなどの禁止を指導するのではなく、他の活動に目を向けさせる取り組みとして、新たな「オフラインデー」を行う。

○現在の落ち着いた学習態度や高い学習意欲が必ずしも全国学力学習状況調査や学力経年調査等での結果に結びついていないことが今後の課題である。「TSUKUNISHI スタンダード」を改めて見直し、教科指導の向上を図る。

○専科指導による学級担任の授業時数減少が必ずしも負担軽減になっておらず、依然として学級担任の時間外勤務時間が減らないことが課題である。また、各教科の時数管理のために、学年での教科横断的な学習指導ができない、柔軟なカリキュラムマネジメントが取れないことも改善が必要である。

○安定した学級経営を行うために、いじめや児童間のトラブルに関する早期発見・早期対応に努める。また、教職員間での情報共有を徹底する。

○異学年交流や学校行事、特別活動を大切にし、多様な価値観を共有できるような集団作りや自他の違いを認め合える集団作りをさらに推進していく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

令和 7 年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する児童の割合を 85 ポイント以上にする。

令和 7 年度の小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」の項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する児童の割合を 93 ポイント以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

令和 7 年度の小学校学力学習経年調査の平均正答率を令和 3 年度より 3 ポイント増加させる。

令和 7 年度の校内アンケートで「学習時間に友達と話し合うことで、自分の考えを深めることができましたか」の項目への肯定的な回答を 85 ポイント以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

令和 7 年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」の項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する児童の割合を 75 ポイント以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を82%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- ・学校で把握した児童虐待の個々のケースについて、必要な対応をした割合を100%にする。
- ・不登校について、関係諸機関と連携しながら組織的に対応し、心の居場所づくりや安心して通学できる学級づくりなど、不登校児童に対するきめ細かな対応に努める。

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小学校）

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を39%上にする。
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を74.8%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を67%以上にする。

学校園の年度目標

- ・小学校学力経年調査の標準化得点をすべての学年において前年度より0.02ポイント向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

【ＩＣＴの活用に関する目標】

- ・小学校学力経年調査における「コンピュータを使って、写真や図を用いたスライドを作ることができますか」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。

【教職員の働き方改革に関する目標】

- ・月45時間・年360時間を超える教職員を0にする。

学校園の年度目標

- ・オンライン学習環境を充実させる。長期欠席児童や出席停止児童に対して学級の児童と同じ学習ができる環境を整える。

3 本年度の自己評価結果の総括

(様式2)

大阪市立佃西小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none">・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。・学校で把握した児童虐待の個々のケースについて、必要な対応をした割合を100%にする。・不登校について、関係諸機関と連携しながら組織的に対応し、心の居場所づくりや安心して通学できる学級づくりなど、不登校児童に対するきめ細かな対応に努める。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1、安心・安全な教育環境の実現】 「School 10」「Home 10」の取組みを通して、学校と家庭が一体となって児童の規範意識を向上させ、規律ある生活習慣を身につけさせる。</p>	
<p>指標 学校アンケート（がんばっていることがらアンケート）できまりを守っている児童の割合を85%以上にする。 学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向1、安心・安全な教育環境の実現】 道徳教育・人権教育の推進。個々のケースを踏まえ、心の居場所づくりや安心して通学できる学級づくりをつとめ、指導力の向上を図る。</p>	
<p>指標 学校アンケート（がんばっていることがらアンケート）の「自分には良いところがあると思いますか」への肯定的な回答を昨年度比で向上させ、80%以上にする。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向1、安心・安全な教育環境の実現】 体験学習や校外学習を充実させ、キャリア教育や多文化共生教育を行う。</p>	
<p>指標 幼少連携や出前授業などの充実を図る取り組みに努め、児童のふり返りアンケート</p>	

で「将来の夢や目標をもっていますか」への肯定的回筈を 75%以上にする。

取組内容④【基本的な方向 2、豊かな心の育成】

学校行事や児童集会、縦割り班活動での取り組みを通して、自尊感情を高め、互いに励まし高めあう集団をつくる。

指標

学校アンケート（がんばっていることがらアンケート）の「縦わり班活動でちがう学年の人と楽しく活動していますか」に対する肯定的な回答を 90 ポイント以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

大阪市立佃西小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経年調査における、国語の平均正当率の対全国比をいずれの学年も同一母集団において経年的に比較し前年度より0.02ポイント向上させる。 ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」(昨年度36.3%)に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を37%以上にする。 ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。(昨年度69.6%) ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「1週間の総運動時間」が60分未満の児童の割合を15%以下にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 TSUKUNISHIスタンダードを全教員が実践することで、どのクラスも質の高い授業を行うことができるようとする。</p>	
<p>指標 学校アンケート（がんばっていることがらアンケート）において、「学習内容がわかるまで、よく考えて取り組むことができていますか」に対する肯定的な回答を88%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 「主体的な学び」「対話的な学び」を中心とした授業を行い、相手の考えを取り入れることで自分の考えを深めることができる学びの姿勢を育てる。</p>	
<p>指標 学校アンケート（がんばっていることがらアンケート）において、「学習時間に自分の意見を書いたり、友達の考えを聞いたりして、自分の考えを深めることができましたか。」に対する肯定的な回答を80%以上にする。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向5、体力・運動能力のための取組の推進】 体力の向上は、子どもが豊かな人間性や自ら学び考える力といった「生きる力」を身に付ける上で重要である。規則正しい生活習慣を身につけながら、健やかな体づくりの育成に努める。</p>	
<p>指標 学校アンケート（がんばっていることがらアンケート）において、「すすんで外遊びや運動をしていますか」に対する肯定的な回答を80%以上にする。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

(様式 2)

大阪市立佃西小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>【ICTの活用に関する目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の60%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く) <p>【教職員の働き方改革に関する目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員の時間外勤務月45時間・年360時間を超える教職員を0にする。 (昨年度 基準1 60.5% 基準2 97.4%) 本市調査における、「学校図書館貸出冊数(児童1人当たりの年間貸出冊数)」を36冊以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6、教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>朝の学習時間にタブレットを活用し、自主的にデジタルドリル等の学習に取り組むように指導する。児童の活用状況や学習進度を教員が把握し児童への支援を行う。オンライン学習をいつでも実施できるように全学年でのオンライン学習環境を整える。</p>	
<p>指標</p> <p>デジタル教材を活用した学習を週3回以上実施する。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>時間外勤務時間を昨年度平均より減少させる。</p>	
<p>指標</p> <p>毎月設定されている「ゆとりの日」のうちの一回を18時退勤の日とし、全教職員が実践する。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向8、生涯学習の支援】</p> <p>学校図書館やその蔵書を活用した授業を計画的に行う。</p>	
<p>指標</p> <p>学校アンケート(がんばっていることがらアンケート)において「進んで本を読むことができましたか。」に対する肯定的な回答を70%以上にする。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

次年度への改善点